株式会社 DZHフィナンシャルリサーチ
東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー32 階

週間展望・回顧（豪ドル、南ア・ランド）

February 12, 2021

豪ドル、雇用統計に注目

◆豪州からは好悪両材料あるが、感染抑制で豪ドルは底堅いか
◆豪経済指標では雇用統計に要注目
◆ZAR、南アの CPI が中銀目標内にとどまるか注目

予想レンジ
豪ドル円　78.00-83.00 円
南ア・ランド円　6.90-7.30 円

2 月 15 日週の展望

豪ドルは底堅い動きとなるか。豪準備銀行（RBA）の理事会では 4 月以後も債券購入プログラムを延長することが決定され、ロウ RBA 総裁は早期の金緩和解除を否定している。しかし、今週から開かれているテニスの全豪オープンのウイルス対策（14 日間の隔離だけでなく、練習時間の厳格化・感染者が判明した場合の再隔離など）を見ても分かるように、厳しい規制が豪州のウイルス感染拡大を抑えている。このことで、経済回復も比較的早くなるという声が多いことが豪ドルの下値を支えている。ただし、豪州には不安要素が 2 つある。1 つ目は豪中関係改善の糸口を見つけることができないことだ。今週も中国で豪州国籍の中国系アナウンサーが逮捕されるなど、豪中関係は悪化の一途を辿っている。2 つ目は雇用情勢に不安を抱えていることだ。ジョブキーパー制度は 3 月に終了する。ここ最近、パートタイム雇用は増加しているが、フルタイムは景気回復の見通しが立たないことで採用に躊躇している経営者が多くいる。その影響もあり賃金が上昇するのが難しいとされていることも問題になっている。

来週は豪州から 16 日に RBA 理事会議事要旨、18 日に 1 月雇用統計、19 日に同月小売売上高が発表される。議事要旨は、理事会の声明文公表後に RBA 総裁をはじめ複数の RBA 要人が講演をしていることもあり、特段サプライズのようなものはないか。RBA 総裁が「失業率を低下させるため、あらゆる手段を講じている」と発言していることもあり、雇用への注目度がより高まっている。特に 1 月からジョブキーパー制度の一部が廃止されていることで、影響が出ているか注目だ。

南アフリカ・ランド（ZAR）はもみ合いか。ワクチンがウイルス変異株に対して効果が薄いこと、電力の負荷制限などのネガティブなニュースにもかかわらず、ZAR は引き続き堅調地合いを維持している。ただ上昇スピードが速いことから、さらに上昇するには時間を要するかもしれない。来週の注目イベントは 17 日に発表される 1 月の消費者物価指数（CPI）と小売売上高が注目される。特に CPI は前年比で南ア準備銀行（SARB）が目標とする 3-6%の間に収まるかが注目となる。

2 月 8 日週の回顧

豪ドルは小高く推移した。豪州からは市場が動意づくような経済指標などがなかったことで、豪ドルの値動きは限られたが、NZ ドルの上昇に連れて底堅い動きになった。NZ ドルは NZ 準備銀行（RBNZ）が発表した期待インフレ率が前回発表値よりも上昇したことなどから、買いが優勢となった。豪ドル円は 2018 年 12 月以来の水準までじり高となった。週後半は日本以外のアジア諸国が旧正月で休場となったことで、市場参加者の減少により値動きは極端に限られた。

ZAR は堅調に推移した。週末のファイナンシャル・タイムズ紙に、アストロゼネカとオックスフォード大学が開発したワクチンは南ア発の変異株には効果が薄いという記事が掲載されたことで、ZAR は週初には弱含んで始まった。しかし、下値トライが限られたこともあり、買い戻しが入ると昨春につけた最安値更新後の戻り高値を更新した。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.